



6月梅雨入りしてうっとうしい毎日です。

「今年の梅雨入り」は全国的に早く、雨空が広がっています。しかし、鬱陶しい雨の中でも「紫陽花」がとてもきれいに咲いています。「紫陽花」は種類が多く、一般的なパープルからホワイト、ピンク、グリーン、ブルーなど色とりどりです。形も萼が花の周囲を縁取るように並んだ「ガク咲き」、萼が球形になった「手まり咲き」、幾重にも萼が並んだ「八重咲き」や「覆輪」など色々なバリエーションを楽しむことができます。小金原でも街のいたるところで「紫陽花」が咲いています。雨降りのどんよりした空の下でも「素敵なカラーの紫陽花」が景色を彩ってくれます。

1928年から、6月4日は「虫歯予防デー」、1958年から6月4日～6月10日の1週間を「歯の衛生週間」、そして、2013年から、「歯と口の健康週間」と言われ、「歯の衛生」について正しい知識を国民の皆様に対して普及啓発するとともに、歯科疾患の予防に関する適切な習慣の定着を図り、併せてその早期発見、早期治療で、「歯の寿命」を延ばすことにより、「国民の健康の保持増進」、「健康寿命」に寄与することを目的にしています。

最近では、11月8日にも「いい歯」にちなんで「いつまでも美味しく、そして楽しく食事をとるために」日本歯科医師会では、「歯とお口の健康習慣」、千葉県歯科医師会では、「千葉県民いい歯とお口の健康ウィーク」が開催され、歯だけではなく、「歯周病、口腔がん早期発見、オーラルフレール予防」に対して、健診や普及啓発を行っています。
ハヤカワ歯科 院長 早川琢郎



紫陽花

『歯周病について』 口内フローラ (プロバイオティクス)

最近免疫を上げる「乳酸菌のドリンク」や「乳酸菌のサプリ」が実用化され、多くの人にとって日常となっています。それと同様に、プロバイオティクスは「バクテリアセラピー」とも言われ、ノーベル生理学・医学賞の診査本部があるスウェーデンのカロリンスカ医科大学が中心となって開発した「最先端の予防医学技術」です。先進のバイオテクノロジーの研究によって解明され、優れた「善玉菌 (プロバイオティクス)」によって口内菌のバランスを管理することで、外から入ってくる「有害な細菌やウイルス」から体を守ったり、体の中で「悪玉菌が増殖」するのを抑えたりします。「プロバイオティクス」はお口の中だけではなく、「全身の健康」や、「予防」につなげていきます。代表的な菌として、「ヒト由来の善玉菌、ロイテリ菌」があります。世界63の国と地域の医療機関が導入し、健康維持・安全性は高く評価されており、「赤ちゃんから高齢者」まで安心して使えるというのが大きなメリットです。ただし、「プロバイオティクス」を摂ればすぐに効くというものではなく、毎日摂り続ける必要があり、「効果を感じ始める」までに2週間から1か月ほどかかると言われており、「口内で育菌」できて「安定的に効果が発揮」されるまでに1～3か月かかると言われています。



『歯を白くするホワイトニング』②

歯を削らずに「薬剤」を作用させて歯を白くする「ホワイトニング」は現在では一般的な存在になりました。一方、「クリーニング」により「ポリッシングペースト」を使用し、歯の表面についた「着色 (ステインやコーヒー・紅茶、タバコのヤニ汚れ)」などを落とし、「本来の白さ」に戻すことができます。最近家庭でできる「ホワイトニング」用の歯磨き粉も多く販売されていますが、日常的に自宅で強い研磨剤入りの歯磨き粉の使用は歯質が削れて「知覚過敏」になったり、エナメル質が削れてかえって「歯が黄ばんで」見えるようになることもあります。慎重に選ぶことが大切です。

「新型コロナウイルス感染症」は感染症法上の分類も「2類相当」から「5類」へと変更になり「コロナ禍」も収束に向かっていきます。「マスクを外す機会」が多くなり、「笑顔」で人と接する機会が多くなることが予想されます。そんな時、「白く輝く歯」は相手に対して「印象」をよくする大きなアイテムです。



6月のお知らせ

- ホームページをアップしています。
(URL) <http://www.hayakawashika.com/>
「ハヤカワ歯科松戸市小金原」検索をお願いいたします。
- 「小児の歯並」「咬合育成」のご相談、随時受け付けております。
- お口の機能の維持のための「オーラルフレールの検査」、「トレーニング」を行っています。
- 「新型コロナウイルス感染症」に対する感染対策は「皆様の健康の安心安全」を考慮して、従来通り行っていきますので、ご理解ご協力のほどお願いいたします。
院長 早川琢郎

日曜診療日 (9時～13時30分)
6月4日、18日 / 7月16日、30日